

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	基山町立基山小学校			達成度（評価）								
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 基山町小中3校で「小中一貫教育」を推進するために9部会を設置し、研究や実践をしてきた。3校共通の目標である「きたえ やりぬき まなびあう」の達成のために、「すみそあじ」など共通の取組に力を入れることができた。 9部会については、定例で部会を行った。各部会ごとに参集型やリモートでの会議を重ね、各専門部の機能強化と専門性を高めていった。 学年主任や各主任を核とした組織的な指導体制をさらに強化し、ミドルリーダーの育成と若手支援を継続して行い、実践的な研究を深めていく。 特別支援教育では、職員全体で研鑽を積み、個に応じた支援の在り方について意識を高めることができた。今後も高い専門性をもって、指導や支援にあたることができるようにしていきたい。 一人一台端末の効果的な活用と職員のスキルアップを図ることができた。今後は、普段の授業だけでなく、欠席者へのリモート授業等ができるよう教員のスキルを更に高め、タブレット活用の幅を広げていきたい。 											
2 学校教育目標	<p style="text-align: center;">きたえ やりぬき まなびあう 【 夢いっぱい基山っ子！ 笑顔であいさつ・笑顔でありがとう 】</p>											
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基山中校区の小中一貫教育では、引き続き9つの専門部を校内組織と更に関連付ける。これにより、これまでの取組の精査を図るとともに、各専門部の機能強化と専門性をさらに高めていく。 特別支援教育において、個に応じた指導や支援ができるよう、指導者及び特別支援学級補助員を含む全職員が児童理解に努め、スキルアップしていく。 一人一台端末の効果的な活用において、今後は持ち帰りをしての活用や個に応じた学びにおける活用について取り組むことで、児童の主体的な学びにつなげ学力向上を図る。 											
4 重点取組内容・成果指標	中間評価			5 最終評価	主な担当者							
(1)共通評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価	最終評価								
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童が主体的に学ぶ授業の実践	○アンケートにおいて、ふりかえりを通じて、自分に付いた力を実感したと回答した児童80%以上。また対話活動のよさを実感したと回答した児童80%以上。	具体的な取組 進捗度（評価） B	中間評価 進捗状況と見通し ・「学習して、力は伸びているか」に肯定的な回答(児童)は95.5% ・「あわせを共有し、ふりかえりを行っているか」に肯定的な回答(職員)は92.7% ・校内研究においてふりかえりや対話活動を充実させていく。 ・全国学力学習状況調査の結果から授業改善の研修を実施	最終評価 達成度（評価） A	・ふりかえりを通じて、自分に付いた力を実感したと回答した児童は、88%で目標を達成した。 ・全ての学年において、あわせを共有し、ふりかえりを行っている職員が97%おり、ふりかえりについて周知徹底できた。 ・対話活動のよさを実感したと回答した児童91%で目標を達成した。 ・校内研究において対話活動を充実させたことで、他の児童との対話を通じてよりよく課題解決をする児童が増えた。	評価 A	・全国及び佐賀県学力・学習状況調査の結果、県の平均を上回るか、同等の結果である。 ・「テストが終わると、それで学習が終わる」とせずに、間違ったところをやり直す習慣を小学校の頃から付けてほしい。やり直したり、復習したりすることで、また力を付けることになると思う。	・学力向上コーディネーター ・研究主任 ・小中一貫教育担当			
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒85%以上	具体的な取組 進捗度（評価） A	中間評価 進捗状況と見通し ・全ての学年において「ふれあい道徳」を実施する。 ・一人一人がよさを發揮し、互いのよさを認め合える授業や学級経営を行なう。 ・集会や総割り活動等で自己肯定感や自己用感の高揚を図る。	最終評価 達成度（評価） A	・「お子さんは学校生活を通して思いやりや倫理観など道徳的な心情が育っているか」に肯定的な回答(保護者)は91.9% ・「道徳の学習で学んだことをいかしたい」に肯定的な回答(児童)は94.8% ・「児童が、他者への思いやりを感じ深める道徳教育を行っているか」に肯定的な回答(職員)は97.5%、指導を継続予定 ・全クラスでふれあい道徳の授業を実施	評価 A	・基山町は、県内でも外国籍の方が多く住んでいる町である。そのため、今後も外国籍の児童が増えていくことが考えられる。 ・「ねらいは学校生生活を通して、思いやりや倫理観など道徳的な心情が育っているといふまでもある」に肯定的な回答をした保護者は中間時と同等であった。 ・「児童が、他者への思いやりを感じ、深める道徳教育を行っているか」に肯定的な回答をした職員は中間時と同等であった。 ・「ジェンダーナラティブLGBTQの問題、外国籍の児童の増加など、道徳教育や人権教育でも取り扱っていく必要がある。	・道徳担当		
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止・相談活動の充実等組織対応がでできていると回答した教員85%以上	○いじめの未然防止・相談活動の充実等組織対応がでできていると回答した教員85%以上	具体的な取組 進捗度（評価） B	中間評価 進捗状況と見通し ・HP-QUの活用と、いじめに関するアンケートを年間2回実施することで、児童の実態を把握し、指導に生かす。 ・定期的に、児童の情報や児童の本の場を設ける。 ・SC, SSWの活用、保護者、地域、専門機関との連携強化を図り、生徒指導や教育相談体制の整備を行う。	最終評価 達成度（評価） A	・「学校はいじめの未然防止や早期発見のために組織的に対応しているか」に肯定的な回答(保護者)は85% ・「学校全体として、いじめの未然防止や早期発見のために組織的な対応がでできているか」に肯定的な回答(職員)は95.2% ・引き続きSC, SSW等との連携を図りながら、いじめの未然防止及び教育相談の充実に取り組みを実施予定	評価 A	・いじめアンケートを2回実施し、いじめの早期発見に努めることができた。 ・「学校全体として、いじめの未然防止や早期発見のために組織的な対応がでできているか」に肯定的な回答をした保護者及び職員は中間時と同等であった。 ・「児童が、他者への思いやりを感じ、深める道徳教育を行っているか」に肯定的な回答をした職員は中間時と同等であった。 ・SC, SSW等の連携を図りながら、学校全体でいじめの未然防止・教育相談の充実に努めることができた。	・いじめはあっていながら、大規模校でありながら大きないじめにつながっていないのは、学校が早期対応を行っているからと考える。 ・別室登校や町の支援センターの利用など、外部とのつながりがスムーズにできている。	・教頭、主幹教諭 ・生徒指導担当
			●健康・体づくり	●○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところやがんばりをほめてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	具体的な取組 進捗度（評価） B	中間評価 進捗状況と見通し ・「先生達はあなたのよいところやがんばりをほめてくれるか」に肯定的な回答(児童)は92.7% ・「将来の夢や目標をもっているか」に肯定的な回答(児童)は86.5% ・「児童のよさや伸びを認めほめているか」に肯定的な回答(職員)は100% ・小中の系統性のある「きやま学」や「キャリアパスポート」の取組 ・キャリアパスポートの活用を推進する。	最終評価 達成度（評価） A	・「児童のよさや伸びを認めほめているか」の問い合わせに肯定的な回答をした職員は中間時と同じ100%であった。 ・「地域の資源や人材を活用した学習に取り組んでいるか」に肯定的な回答をした職員は79.4%であった。 ・「児童のよさや伸びを認めほめているか」に肯定的な回答をした職員は97.4%であった。 ・小中の終わりに、児童の夢や希望につながるような「キャリアパスポート」に取り組む。	評価 A	・地域の資源や人材を活用した学習で、高学年は、家庭科などたくさんサポートしてもらっているので今後は、地域学習が低学年でもできればと考える。例えば、「町たんけん」などで地域とのつながりをもつことができるのではないかと思う。	・学校行事担当(教頭、主幹、教務、各学年) ・「きやま学」担当
	●健康・体づくり			①「安全に関する資質・能力の育成」	①児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ・児童の安全に関するアンケートにおいて、安全に対する意識の向上が図れたと回答した児童80%以上	具体的な取組 進捗度（評価） A	中間評価 進捗状況と見通し ・交通安全教室や地区児童会、登校班長会等を通して、児童の安全意識を高める。 ・地域との連携をより積極的に行なう。 ・「防災・安全」部会を中心、小中一貫の取組を計画・実践する。	最終評価 達成度（評価） A	・今年度、児童の交通事故は0件で、地域との連携を図りながら安全に過ごすことができた。 ・「交通安全」に気を付けて生活をしているかの問い合わせに肯定的な回答をした保護者は93.7%であった。 ・「児童の安全意識を高める指導を行っているか」の問い合わせに肯定的な回答をした職員は97%で伸びている。	評価 A	・児童の安全意識を高める指導について、今後も100%を目指し、全職員で取り組んでほしい。 ・交通安全に関しては、地区によっては交通量の多い道路がある。そのため、車道からなるべく離れた歩道を歩くなどの指導をしてほしい。 ・朝の登校はよいが、下校や放課後は気が緩みがちなので、これからも気を付けるように指導をしてほしい。	・安全指導担当
		●業務改善・教職員の働き方改革の推進		○食育教育の充実	○年間の給食残糞率を5%以下 ・給食に関するアンケートで、給食が楽しいと回答した児童90%以上	具体的な取組 進捗度（評価） B	中間評価 進捗状況と見通し ・栄養教諭と食育教育担当職員が中心となり、学級担任との連携した食育指導を展開する。	最終評価 達成度（評価） A	・4月から10月までの給食残糞率は6.1% ・引き続き栄養教諭と担任が連携し、給食時や授業において食育指導を実施予定	評価 A	・物価が高騰し給食費は大丈夫なのか心配である。 ・「給食が楽しい」というのは、とてもよいことである。 ・「給食が楽しい」と回答した児童は88%であった。 ・食育の授業の実践や給食委員による活動を計画的に実施できた。	・栄養教諭 ・食育指導担当
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	具体的な取組 進捗度（評価） B	中間評価 進捗状況と見通し ・働き方改革に関する研修を実施し、教員の意識の向上を図る。 ・業務のデジタル化に取り組み、業務効率化を推進する。 ・金曜日を定期的推進日として、17:30施設、その他勤務日においても18:30の上限とする。 ・衛生委員会を通して勤務実態の共有を図り、業務改善意識を高める。	最終評価 達成度（評価） A	・「学校は校時表の見直しや学校行事の精選を踏まえた働き方改革を行っているか」に肯定的な回答(職員)は97.6% ・「労働安全衛生委員会を開催し、職場の環境等改善点について意見収集を実施。 ・時間外勤務時間平均は減少。18:30退勤の上限遵守については取り組みを継続実施	評価 A	・「学校は校時表の見直しや学校行事の精選を踏まえた働き方改革を行っているか」に肯定的な回答をした職員は90.9%。今年度新たな取り組みはないが、昨年度の改革が定着している。 ・労働安全衛生委員会を開催し、職場の環境等改善点について、医師の意見をもとに改善することことができた。 ・時間外勤務時間平均は徐々に減少。18:30退勤の上限遵守については取り組みを継続実施している。 ・サービスのシステム化など業務のデジタル化は、進んでいる。	・会社関係はいよいよ前から導入されていたが、学校も出勤動のカードリーダー使用や休暇に關してもシステム入力になり業務改善につながり、よかったです。	・教頭
		●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	具体的な取組 進捗度（評価） A	中間評価 進捗状況と見通し ・教職員を対象とした特別支援教育に対する専門性が向上したか問い合わせに肯定的な回答(職員)は92.7% ・引き続き特別支援学級における研究授業や自立活動の公開授業など教職員の研修機会を設定予定	最終評価 達成度（評価） A	・「研修会等を通して、特別支援教育に対する専門性が向上したか問い合わせに肯定的な回答をした職員は94.1%で、個に応じた支援の在り方について意識を高めた職員が多い。 ・校内研修、特別支援学級における研究授業を実施し、職員の研修機会を設けた。 ・定期的に支援員との打合せの時間を設け、連携を深めた。	評価 A	・職員が常に研修を受けていると聞き、感心している。 ・特別支援学級が年々増加しているよう、教室不足、教員不足が心配である。	・特別支援コーディネーター	
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価	最終評価	学校関係者評価	主な担当者					
	○基本的な生活習慣の定着	○あいさつ、返事、廊下歩行、はきもの揃えの定着 ○「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底	○基山小中一貫の取組「す・み・そ・あ・じ」を達成できたと回答した児童80%以上 ○十分な睡眠が取れないと回答した児童80%以上	具体的な取組 進捗度（評価） B	中間評価 進捗状況と見通し ・毎月の「生活目標」を「す・み・そ・あ・じ」に焦点化し、毎学期繰り返して取り組むことで指導の徹底を図る。 ・学校によりや全校集会等で児童の頑張りを肯定的に評価し、定着を促す。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の周知徹底を図る。	最終評価 達成度（評価） B	・「登校の様子を見ると全体的に挨拶ができるとは言えない状態である。アンケートで挨拶ができる割合は、83%と学期からマイナス、2学期から変わらない結果だった。3学期から校内でも挨拶をするように取り組んだことで、少しすずつはあるが、自分から挨拶をする児童が増えてきたように思われる。また、家庭への働きかけも必要だと感じた。	評価 B	・あいさつがしっかりできるかできないかは、大人や家庭の方が大きい。 ・学年によって差があるようだ。 ・「すみそあじ」に対しては、どうしたらよいのか、自分が意識して高まるように、「自分のめあて」を考えたらしいのではないか。	・生徒指導担当 ・養護教諭		
○GIGAスクール構想におけるICT利活用		○一人一台端末の有効活用	○一人一台端末の活用が十分にできたと回答した教員80%以上 ○端末を用いた学習は主体的な学びにつながったと回答した児童80%以上	具体的な取組 進捗度（評価） B	中間評価 進捗状況と見通し ・情報担当教員を中心とした教員のスキルアップのための研修会を実施する。 ・一人一台端末の活用に関する情報交換を実施する。	最終評価 達成度（評価） A	・「タブレットを使った学習で取り組んでいるか」の問い合わせに肯定的な回答をした保護者は96.1% ・「タブレット端末を活用した授業づくりの研鑽を踏み、端末の活用に取り組んでいるか」の問い合わせに肯定的な回答をした職員は68.3%、タブレット利活用については、研修等で教員のスキルアップを予定。	評価 A	・タブレット活用への努力がうかがえる。毎日持ち帰りになつたことあり、一層利活用の研修を深めてほしい。	・情報教育担当		
		●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育について、職員全員で研鑽を積み、個に応じた支援の在り方について意識を高めることができた。今後も、高い専門性をもって指導・支援にあたることができるように研修の機会を作り、研鑽を積んでいきたい。 小中一貫教育の充実を図るため、「すみそあじ」を月目標に取り入れ、一年間取り組んできた。児童の意識づけはできているが、家庭にも協力をお願いするなど、地域・家庭・学校が連携し、より一層定着を図りたい。 一人一台端末の効果的な活用と職員のスキルアップを図ることができた。今後は、個に応じた学びにおける活用について取り組んでいきたい。 								